

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス びじょん		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 5日 ～ 2025年 3月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2025年 2月 5日 ～ 2025年 3月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12 (回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	2025年4月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	週1回（土曜日）必ずレクリエーションに取り組んでおり、隔週で食育レクリエーション・外出レクリエーションを行なっている。	食育レクでは、自身の役割を全うし達成感や成功体験を得つつ、食べず嫌いも減らしていけるように取り組んでいる。スタッフのサポートのもと包丁や火を扱うので、児童だけでなく幼児も参加できるようにしている。外出レクでは、遊びを行なう中で外部の子ども達も自然と遊びの輪に入りやすい環境を作り、外部とのコミュニケーションも促している。	繰り返し食育レクを行なうことで各野菜の切り方や料理行程を少しずつ覚えてもらい、応用した料理にもチャレンジしたり見通しをもって行動できるように取り組みたい。
2	長期休暇期間は集団支援を行ないつつ、創作活動（折り紙工作等）を通して指先の感覚トレーニングに取り組んでいる。	季節に合わせた壁面装飾（折り紙）や、50音表、カルタを作り、指先の感覚トレーニングに取り組みつつ、皆と協力して1つの作品作りを行なう楽しさを味わってもらっている。また、完成作品を外部からも見える所に展示し、子ども達が達成感を感じられるようにすると同時に、地域の方にも作品を楽しんでもらえるように公開している。	季節にこだわった作品だけでなく、状況に応じて子ども達のブームに沿ったものや子ども達の提案を踏まえた作品作りを行なっていきたい。
3	避難訓練や交通安全訓練では消防署・警察署の職員に來所していただき、実際に指導を受けながら訓練を行なっている。	消防署・警察署の職員の方と打ち合わせを行ない、年齢問わず子ども達が楽しめるプログラムを計画している。実際に消火器に触れたり、外に出て実践的な交通指導を受けることによって、滅多に体験できない経験をすることができるようになっている。	固定化されたプログラムにならないように、その都度消防署・警察署の職員の方と打ち合わせを行ないながら、子ども達が新鮮な経験を得られるようにしたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	長期的に勤められる人員の確保。	面接の際には条件等は納得して長く働いていただくように努めているものの、伴侶の転勤、出産、育児、介護、病気、賃金の好条件等が壁になっている。	長期的に勤めることができるようにキャリア面談や相談をしやすい環境作りを行なうが、スタッフが退職を願い出た際には退職事情を尊重する。
2	希望通りの送迎時間に送迎ができないことがある。	送迎車が2台のため、保護者様の希望する時間帯が重なってしまうと、希望通りの時間に送迎ができないことがある。	保護者様と密に相談を行ない、時間調整を行なったの送迎の提案や保護者様のお迎えの相談を行なう。
3	バリアフリー化。	トイレには手すりを設置しているものの、それ以外はバリアフリー化をしていない（現在の利用者様で必要とされている方がいないため）。	今後必要性がある場合には保護者様と相談の後、前向きに検討を行なう。